

時を重ね、 深まる暮らし。

建築例／『続・ひとつの家』

文・写真／コロボ 山崎健治

平成20年12月に完成した『ひとつの家』も、早いもので今年の5月で4年半の歳月が過ぎました。性能や便利さよりも心地良い素材や空間に囲まれた暮らしを望まれたSさんご夫婦は、大きな一枚の屋根の中に平屋的な生活を主体とした木の家を計画し、夫婦2人と愛犬のハナちゃんとの暮らしをスタートさせました。

Sさんは私の友人でもあることから、完成後も何度かお宅に伺い、また友人の集まりなどで顔を合せる度に暮らしぶりや木の家の感想を聞かせていただいていたいました。

四季を通じての暮らし方や、こだわりの家具や生活用品などを拝見すると、ますます木の家暮らしを愉しんでいる様子が伝わってきます。また、コロボ通信やホームページをご覧になって『ひとつの家』についてのご質問をいただく事も度々ある事から、現在の暮らしぶりを覗かせていただくという事で『続・ひとつの家』の企画をたて、心地良い春風の吹く4月下旬にSさんのお宅を訪ねてきました。

ご夫婦2人でスタートさせた木の家暮らしですが、1年半程前に待望のお子さんを授かり現在は親子3人十ワン（ハナちゃん）の暮らしに変わっています。

大きな窓が特徴的な空間やこだわりの素材、そして開放的な浴室。4年半経過した現在の様子などもレポートしながらお伝えしたいと思います。



広間とワンフロアに繋がったダイニングとキッチン。新築当初と比べて木の色艶が増し、落ち着いた雰囲気になってきた。





新築時と比べるとお子さんの物が中心の広間になったが、楽しく動きのあるモビールやおもちゃもこの家のインテリアとして似合っている。

◎ リビング

夫婦二人ではじまった暮らしからお子さんの居る暮らしに変わり、ダイニングや広間などの使われ方が変わってきました。くつろぐ場所として設けたソファークーナーは現在お子さんの遊び場。床でゴロっとできるようにプレイマットを敷き、周辺の飾り棚はお子さんのおもちゃ置き場に。現在はお子さん中心の生活に変わり新築当初とは部屋の使われ方が違いますが、暮らしを長い目で見ていくと今の時間はとても短いので、子供の成長と共に暮らしを変化させて楽しく暮らしていきたいと話していました。



《新築時》

◎ ダイニング

新築時との写真を比べると、天井板や床板の色艶が増している様子が良くわかります。天井板は杉独特の源平（赤身と白身）の差がなくなり、全体として同じような色合いに変わり、色も濃くなりました。床の鬼胡桃板はだんだんと艶を増し味わい深い雰囲気になっていきます。床板には細かなキズはあるものの気にならず、とても綺麗な状態だと感じました。木の色艶が増していく事で部屋の雰囲気も変わり、陰影のある落ち着いた空間になってきたと思います。



《新築時》



広間からダイニングとキッチンを見渡す。昨年キッチンに設けた大きな窓にタイコ障子をはめ込んだ。西日対策として設けた障子が部屋アクセントになり、落ち着いた雰囲気に変えている。

木の家に住む 愉しみと責任

今まで何度かお伺いさせていただきましたが、その度に改めて独特の居心地の良さ感じます。キッチンとひと続きになった開放感のある広間、そして床や壁の素材感。一口では表現できませんが、上質な質感と陰影のある落ち着いた雰囲気を感じます。計画当初「たくさんの部屋はいいから、いつも使う部屋や場所を重視したい」と話していた夫婦。広間の天井高さやキッチンの窓の大きさや形、床材や壁材も慎重に吟味した事を覚えています。キッチンの大きな窓や浴室の造りなど、ちよつと特別感の高い部分もありますが、それがこの家の雰囲気を作っているように感じます。心地良い素材や空間に包まれたこの場所は、日常に特別な時間も与えてくれています。

完成当初と比べると床や天井などの木部の変化を感じます。天井に張られた杉板は赤身と白身の差を感じる事がなくなり、全体的に落ち着いた色合いに変化してきました。また鬼胡桃材の床板は、色合いの変化に加えて艶を増してきたのがわかります。ワックスをまめに塗っているのかな？と聞くと、引越しの1回だけとか。毎日使われる事でだんだんと艶が増し、味わい深い床板に育ったようです。

床板のワックスはまだ一度だけのよう



床板の胡桃板は使われる事でだんだんと艶が増してきた。味わい深く変化する事も無垢の木の家に暮らす大きな愉しみのひとつ。



新築時に購入した家具も家と共に味わいを増している。毎日使われる事で更に愛着が沸き、大切な家の一部となっている。

すが、家のお掃除は奥様がこまめにされているそうです。「木の家はとても心地良いけれど、毎日を快適に過ごすためには日々のお掃除やメンテナンスも大切だと思っています。木の家に住む愉しみはそこに住む人の責任で良くも悪くもなると思うので、クモの巣を払ったり床掃除をしたり、キッチン周りも毎日少しずつ手を掛けかけて綺麗に保てる様にしていきたいと思っています。」と話してくれました。

どでグリーンカーテンを作って日除けとしていましたが、お子さんに手がかかるようになったのでひとまず障子を嵌め込んで西日対策をしました。障子紙を表裏に張ったタイコ障子はなかなかの優れもの。子育てに余裕が出来たらまたグリーンカーテンにチャレンジしてみるのもいいですね。

生活の変化によって家の様子も変わりますが、素材の経年変化によっても雰囲気が変わってきます。『ひとつの家』では先ほどご紹介した広間の木の変化などに加えて浴室の変化も気になります。壁や天井に使用した青森ヒバの板の経年変化と床に張った諏訪鉄平石の変化を拝見しました。青森ヒバの板は水栓廻りと浴槽近くの水が掛かる部分が一部白くなっていましたが、その他は大きな変化がありませんでした。床の諏訪鉄平石は排水廻りが一部白くなっている部分がありました。こちらも全体として大きな変化が無く、綺麗な状態だと感じました。これからの長い生活の中でいつまでも綺麗とはいえないかもしれませんが、お風呂上りに石鹸の付いた壁をさっと拭くとか、浴槽にお湯が張ってある時は蓋をするなど、毎日のちょっとした手間を掛けてあげることで長く綺麗に保てる浴室だと思います。

生活の変化と経年変化

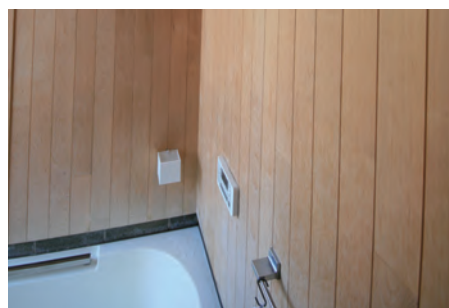
お子さんとの新しい生活が始まった中で変わったことを伺いました。当然今までの夫婦二人だけの生活とは変わり、お子さんを中心とした生活になってきたようです。「広間に物が溢れたり汚れたりはあるけれど、一時的なことだからあまり気にしていないが、家全体がワンルームのような家なので音の響きが少し気になる。」とも話していました。奥さんとしては、せつかく寝かしつけたのに2階の音で起きてしまうとかよつとがっかりとか。今はSさんが帰って来ると物音をたてないように気をつけているそうです。ですが、「長い暮らしの中で現在のような生活は本当に短く、そこに重点を当てて家づくりを考えることはあまり意味が無いのでは。」と話していました。お子さんを起こさないように静かにとか、汚してしまったり傷を付けてしまってもそれはそれでこの家の歴史。木の家に暮らすということは、神経質に暮らすよりそれらを受け入れて暮らす方が楽しいと考えてくれているようです。

大きく変わったのはキッチンの大きな窓に障子を入れたこと。計画当初から「この窓からの西日が気になるね。」と話していましたが、キッチンからの眺めも良く月や星空が見たいからということで大きな窓を採用しました。完成から数年はゴーヤな

◎ お風呂

コロボの造る木のお風呂の中で最も開放的なお風呂と言ったら『ひとつの家』のこのお風呂。L型に設けた大きな窓を開けると露天風呂気分も味わえます。床には諏訪鉄平石を使い壁は青森ヒバで造られています。毎日水を使う場所なので、当然気になるのが経年変化。どちらも新築のままだとはいきませんが、カビや傷みは無くとても綺麗な状態だと感じました。私も一度入らせていただいたことがあるお風呂で、開放感と素材の雰囲気がとても良く、とても気持ちの良いお風呂です。

《新築時》



◎ キッチン

新築後の大きな変化として挙げられるのがキッチンの大きな窓に設けた障子。この窓は『ひとつの家』の大きな特徴で明るく開放的なキッチンです。完成後数年はゴーヤなどでグリーンカーテン作り西日対策をしてきましたが、今年の春、障子紙を2枚貼ったタイコ障子を取り付けました。大きな窓に障子を取り付けた事で広間の印象が変わり、今まで以上に落着きのある雰囲気になったと思います。

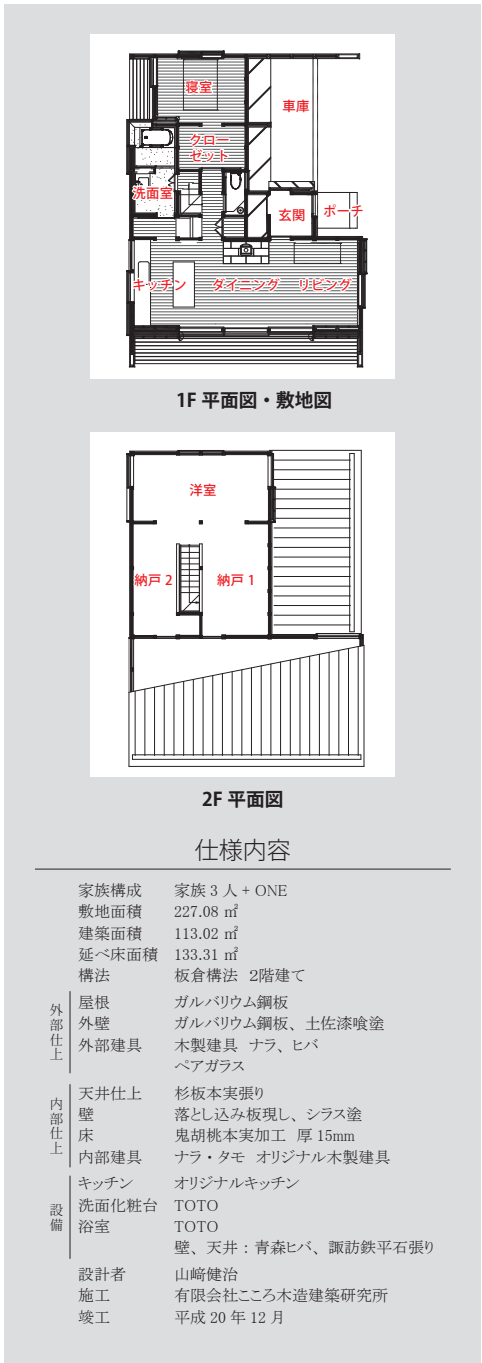
キッチンの壁はステンレスが貼られています。毎日使うガスコンロ周りは油汚れが付きやすい場所ですが、奥さんの毎日の手入れのおかげで現在もとても綺麗な状態です。

《新築時》





光の陰影や床や壁の素材感など、この家に来ると独特の居心地の良さを感じる。暮らし方が変わっても変わらない心地良さは、素材や空間、そしてそこに暮らす住まい手によって、これからも深まっていくのだろう。



※『ひとつの家』の完成現場報告は 18 号をご覧ください。



右) 中庭より外観を眺める。大きく開放的な窓が特徴ですが、長い軒のおかげで夏の陽射しが室内に入ることはありません。また、軒は外壁を守り、外壁に塗った漆喰もとても綺麗な状態で保たれています。

左上) 新築時に植えた庭の木々も徐々に成長し、広間からの眺めを楽しませてくれている。現在の目標はこの庭を遊べる庭にする事。どんな庭になるか楽しみです。

左下) 東道路から外観を眺める。屋根の勾配を利用して平屋部分と 2 階部分を造っている。タイトルの『ひとつの家』はこの一枚の大きな屋根からイメージ。

『ひとつの家』の今後の目標について伺ってみました。「大きくワンフロアで作った小屋裏スペースを将来的には子供室にしたいと思っているけどもう少し子供の様子を見て検討していきたい。現在は収納スペース兼書斎スペースとして使っているこのスペースは元々子供室用にと設けたスペースだったけど、案外自分にはこのスペースが必要で、多目的に利用できてよかったと思います。」と話していました。

今考えているのは庭を遊びのスペースにすること。せっかく作った庭だけ鑑賞以外に上手く使えていないから、子供の小さい時期は外に出て遊べる庭を作りたいと希望しているようです。新築時に植えた木々もだんだんと成長し広間からの眺めを楽しませてくれます。木々や草花を身近で感じられ、遊べる庭ができると良いですね。

完成してから 4 年半、まだまだ暮らし始めて間もない期間かもしれないですが、毎日はいつも同じ毎日ではなく、だんだんと変化していくものですよ。自分たちの変化や家族の変化、住まいにだってさまざまな変化があります。現時点での家族構成や部屋の役割にとらわれず、変化に合せて快適に暮らしていく事のできる住まいを考えたい事が大切で、それらを根底で支えているのは性能や利便さではなく、居心地の良い住まい、心も体も安心して暮らすことのできる住まいだと思います。今回の取材を通して、心地良く流れる風や光の陰影、暖かくやさしい素材感など、住まいの心地良さを改めて実感する事ができました。まだまだこれからも変化していくと思います。この心地良さだけは変化しないのでしようね。またお伺いする日を楽しみにしています。



『ひとつの家』のsさんより

木の家づくり
アドバイス

——住まいは暮らしてみても分かることや気がつくことってありますよね。木の家に暮らして 4 年半の S さんに、これから家づくりを行う方へのアドバイスを伺いました。

ご主人…自然素材をふんだんに使った木の家に住んでみて、やはり心地良さを肌で感じます。乾燥した空気に弱い体質なのでホテルなどに宿泊したときは加湿器が必須ですが、この家に暮らしはじめて必要だと感じる事が少なくなりしました。また建築当初、木の樹種や等級にもこだわり、素材に関しては少し頑張って家づくりを行いました。造ってしまえば変える事のない床や壁、天井などは時間が経過した現在もとても綺麗で、頑張って良かったと満足しています。

奥さん…キッチンなどの収納面でもう少し工夫しておけば良かったと感じています。食器や調理道具を置いておく場所や食品を収納しておく場所などを適材適所で考えておく事も必要だったかなと思います。キッチン前の大きな窓から差し込む光が思った以上にあり、元々食品を置こうと思っていた棚に置けないとか…。でも大きな窓は気持ちよく、お気に入りの場所です。

木の家には利点も欠点もありますが、長く心地良く暮らしていくためには、住まい手としての責任もあると感じています。日々のお掃除や定期的な塗装などのメンテナンスを行うことができれば、いつまでも心地良い住まいになっていくと思います。手間や苦勞もありますが、それらも楽しんで木の家暮らしをしていきたいと思っています。